

水を防ぐためにこんな方法が...



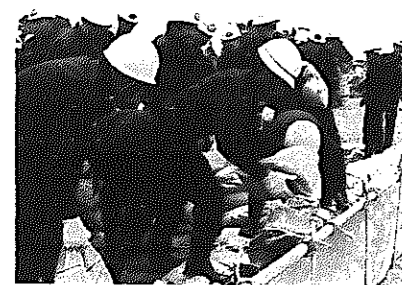
木流し工
 枝葉の生い茂った立ち木を根本から伐採し、枝や幹に土のうを付け、留め杭に結束して堤防の崩壊面に固定する工法。木の葉や枝は激しい水の当たりを弱め、堤防が崩れるのを防ぎます。主に急流部で実施される工法です。



T型マット工
 堤防が浸水しはじめたときなど、堤防のり面の崩壊防止と水の浸水防止を目的として川表にマットを張る方法。マットのあたり止めとして上端にパイプを、下端には土のうを取り付け、マットをのり面に下ろし、土砂を詰めます。



月の輪工
 堤防裏側から漏水が始まった場合に、吹き出し口が大きくなるようにし、堤防が崩れるのを防ぐために行われる工法。土のうを半円形に積み、この中に漏水をためて川表から染み込んでくる水の圧力を弱めます。



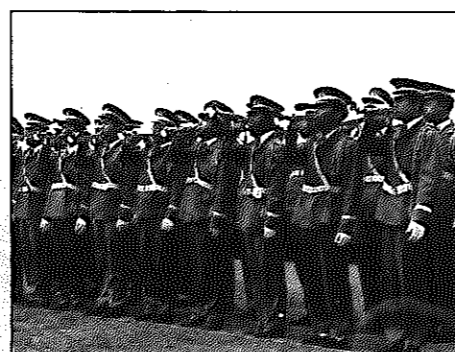
改良積み土のう工
 堤防が沈下したり、増水して水が堤防を越えるおそれがある場合には、堤防の天端に土のうを積み上げ、越水を防ぎます。この工法は、さらに積み土のうの前面にシートや畳などを使い、積み土のうを強化するものです。



雨量や河川の様子が一目で分かる河川情報コーナー。システムの説明にうなづく市民



大鷲小学校の子供たちも演習を見学に。パネル展示コーナーで係員の説明を受けます



1,000人の消防団員を前に、ラッパ隊の吹奏にも力が入ります

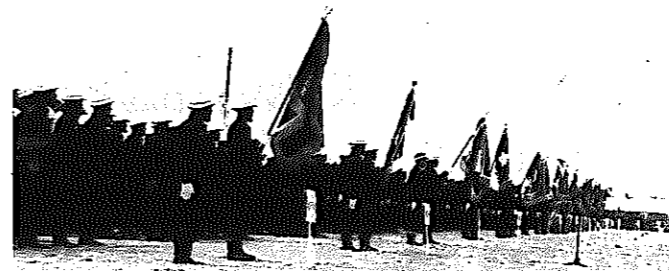


「河川が増水、人が取り残されている…」人工島を造り、飛行機1機、ヘリコプター3機が出動しての、大がかりな水難救助訓練。見つめる目も真剣です。

水から守る

ふるさとを

信濃川下流水防演習



梅雨前線の活動が活発になり、信濃川の水位が急激に上昇、堤防が決壊——このような想定で、六月五日、新津市大秋地先（信濃川右岸、白井橋下流高水敷）で信濃川下流水防演習が行われました。これは建設省北陸地方建設局や県などが主催したもの。本市など六市九町五村の消防団員約千人のほか、陸上自衛隊、航空自衛隊、県警察本部などが参加、日ごろの訓練の成果を披露しました。

助訓練では、飛行機一機、ヘリコプター三機が出動。信濃川に人工島を造り、水難者発見から救助、搬送までの演習を披露しました。特に、空中に停止するヘリコプターから縄ぼしごなどを使って救助に向かう隊員に、見学を訪れた人たちからはどよめきが起こっていました。

めったに見られない大規模な演習に、近郷からは多くの見学者が訪れました。大郷から見学に来た主婦たちは「小学生たちも見学に来るといいうので見にきました。こんな訓練は初めてです。すごいですね」と話していました。

長い歴史の中で数多くの水害に遭っている本市。近年は大きな災害こそありませんが、万一の事態に備える心は忘れないようにしたいものです。



6月5日、白井橋下流で大規模な水防演習が行われました。本市からも95人の消防団員が参加。日ごろの訓練の成果を披露しました。演習では万一の事態に備えた水防工法や水難救助訓練が行われたほか、防災機材や河川情報システムなどの展示コーナーが設けられ、多くの見学者が訪れました。

